

## 参考5. 収支分析のための条件設定

### 1) 各種設定条件

収支分析に関連する各種設定条件を以下の通り設定する。

#### (1) 経費に係わる設定条件

##### ○資金計画

- ・出資金 : 20%
- ・日本政策投資銀行 : 40% (金利3.26%、5年据置20年償還)
- ・市中銀行 : 40% (金利3.21%、5年据置15年償還)

##### ○各種金利

- ・受取利息 : 0.15% (普通預金10年平均)
- ・支払い利息 : 2.21% (短プラ10年平均)

##### ○経費原単位

項目	原単位	備考
人件費	1,000 万円/人	東京都交通局を参考に想定
動力費	3.8 万円/千車キロ	路線長,輸送需要量等の条件が比較的類似する民間事業者である岡山電気軌道(株)を参考に想定
修繕費	4.5 万円/千車キロ	
その他経費	5.2 百万円/営業キロ	

##### ○要員数原単位

項目	原単位	備考
本社	0.171 人/現業要員	路線長,輸送需要量等の条件が比較的類似する民間事業者である岡山電気軌道(株)を参考に想定
運輸	0.053 人/千車キロ	
工務・建設 他	2.6 人/営業キロ	

##### ○諸税

- ・法人税 : 45.75% ※ここでは外形標準課税は考慮していない。
- ・固定資産税 : 1.4%
- ・都市計画税 : 0.25%

##### ○JR 亀戸～越中島間の土地及び既存施設使用料

- ・3.5億円/年 ※JR 東日本試算, ただし現時点での概算額

##### ○その他

- ・経費・人件費上昇率、運賃上昇率0%
- ・償却期間を迎えた車両, インフラ等の更新はみてない
- ・課税特例: 車両: 開業後5年間4分の1  
その他施設: 開業後5年間3分の1、その後5年間3分の2

#### (2) 収入に関する設定条件

##### ○運賃収入

- ・1日利用者数×365日×200円×実収率85% (バスカード並みの割引率)

##### ○運賃外収入

- ・運賃収入×運輸雑収率 3.8%

表5-1. 収支分析及び費用対効果分析で用いた運行・営業費の設定条件

条件設定	軌道形態			備考
	全線複線	部分単線	全線単線	
運行間隔	5分	5分	10分	
1日運行本数	216本/日	216本/日	108本/日	-6~23時台で運行を想定
年間走行キロ	962千km/年	962千km/年	481千km/年	-延長6.1kmで想定
需要水準	2.3~1.7万人	1.6~1.1万人	2.0~1.5万人	1.5~0.8万人
車両形式	5連節車	連節車	5連節車	5連節車
編成数	10編成	10編成	12編成	6編成
概算建設費 (割引後)	204億円 (178億円)	191億円 (166億円)	146億円 (127億円)	116億円 (101億円)
				<ul style="list-style-type: none"> <li>費用対効果分析の費用として計上した値</li> <li>建設期間5年(ただし均等支出を想定)、平成14年価値に割引すための社会的割引率4%、計算期末の残存価値を考慮した</li> </ul>
計	79	79	50	
要員数	12	12	8	-単位:人
運輸	51	51	26	-原単位を用いて試算
工務・建設他	16	16	16	
計	1,303	1,285	954	
年間	790	790	500	-単位:百万円
運行	37	37	18	-原単位を用いて試算
経費	43	43	22	-JR施設使用料はJR東日本試算値
その他経費	32	32	32	(ただし、現時点での概算額)
JR施設使用料	350	350	350	
諸税(平均値)	51	33	32	
			23	